

## ＝ 次の一步 ＝

毎月初旬を目途に発信している委員長メッセージ、大変遅くなりました。なぜならば、9月5日～6日にかけて開催された基幹労連第17回定期大会において、第10期の役員に選出されなければ、この場には戻ってこれなかったということであり、決して、ぼ～っとしていたからではありません。あらためて基幹労連第10期の委員長として、その任につくことを信任いただきましたので、引き続き、時にまじめに、時に楽しく、あれこれの思いをお伝えしていきたいと思えます。変わらぬご愛顧の程お願い申し上げます。

さて、新たな期が始まった。定期大会に向かう9月4日、新幹線の車窓から見える景色に早稲だろうか、早くも稲刈りをしている農家の方々の姿を見かけた。黄金に輝く田んぼ、その昔、黄金の国ジパングとはよく言ったもので、なんか幸せにさせてくれる光景であった。同時に、中学の時だったのだろうか、先生の語られた言葉「よく実った稲穂ほど頭（こうべ）を垂れる」、人は成長すればするほどそうなくてはならん……と。昨今の国際情勢や、今一つよく見えぬ野党の動き、自国ファースト主義や自分の選挙のことしか考えない政治やにはこの言葉を贈りたいものである。

期のスタートから、そんなむしゃくしゃする話はさておいて、MGCシリーズをご存知だろうか。2017年から2019年にかけて指定された大会を「MGCシリーズ（マラソングランドチャンピオンシップシリーズ）」と名付けて、タイムと順位をクリアするとMGC本大会出場権を得られるというもの。東京オリンピックにおけるマラソン競技には、男女それぞれ3名が出場できるのだが、その出場権をかけて9月15日（日）に、まずは男女各2名（残り1枠は後日決定）が東京オリンピック日本代表に内定するMGC本大会が開催される。その大会に、基幹労連の仲間であるMHPS（三菱日立パワーシステムズ株）から、井上大仁（いのうえひろと）、木滑良（きなめりょう）、岩田勇治（いわたゆうじ）の三選手が出場する。

オリンピックのマラソンといえば、視聴率が今一つという大河ドラマ「いだてん」の金栗四三氏が礎を築き、東京オリンピックで円谷幸吉氏が初めて銅メダルを獲得した。そして、円谷氏と同時期に活躍したのが私たちの大先輩である八幡製鉄の君原健二さん。昭和39年東京オリンピックから3回連続オリンピックに出場、昭和43年メキシコで日本人初の銀メダルを獲得している。首を傾げる独特の走り方で、出場した48回のマラソンをすべて完走し、なんと13回も優勝。君原さんは、苦しくなると「次の電信柱まで…、それを過ぎると、また次の電信柱まで…」と自らを奮い立たせてゴールをめざしたという。

今や、そのマラソンはかつて想像もできなかったスピードレースになってきたが、42.195kmの戦いは変わらない。日ごろの厳しい練習とそれを支える気力に頭が下がる。持てる力量をここの一番の戦いで発揮できるか否かは、私たち労働組合の組織活動にも相通じる。基幹労連の第10期は組織力量の実力発揮に向けた正念場でもある。努力はきつと実を結ぶ。MGCでの3氏の活躍に熱い熱いエールを送りながら、向こう2年間の運動の在り様にも思いを馳せたい。頑張れ～、仲間たち。

ご安全に

2019年9月13日

日本基幹産業労働組合連合会  
中央執行委員長 神田 健一